

確かな学力の伸長を目指して

～生徒の主体性を喚起し，学びに向かう力を育む新聞活用～

新潟県立村上中等教育学校



1 NIE 実践のねらい

当校では、「確かな学力の伸長を目指して ～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり～」を研究主題とし、全国学力・学習状況調査の問題や新傾向の大学入試問題を分析しながら研究を進め、時代の要請を踏まえた学力の定着・伸長を図っている。また、「総合的な探究の時間」の実施にあたり、6年間の「総合的な学習・探究の時間」の全体計画を見直した。

NIEの研究主題を『確かな学力の伸長を目指して ～生徒の主体性を喚起し、学びに向かう力を育む新聞活用～』と設定し、主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた各教科の授業と、「総合的な学習・探究の時間」でのNIEの推進を図る。今年度は、「生徒や職員が新聞に触れる機会を増やすための環境づくり」「後期課程を中心とした新聞活用の基礎づくり」に重点を置いて校内計画を作成した。特に、6年間一貫教育の要となる2nd STAGEでの3年生と4年生のスムーズな接続を目指し、実践を行うこととした。

2 本年度実践の概要

(1) 新聞活用のための環境づくり

① NIE コーナーの設置

生徒が気軽に新聞を読むことができるよう、2階フリースペースに「NIE コーナー」を設けた。また、バックナンバーを1ヶ月ごとに束にし、スクラップや調べ学習の際に利用できるようにした。



NIE コーナーの新聞閲覧スペース

② 前期課程での新聞スクラップ

前期課程生（1～3年生）について、朝読書の時間を「NIE タイム」として設定し、週2回、新聞スクラップを行った。各自で新聞を用意し、気になる記事をスクラップし、見出し、記事の概要、感想・意見・疑問点などを記入した。完成したものは、各自の新聞スクラップ用ファイルに綴じ込んで保管した。



前期課程生の NIE タイムの様子

(2) 各教科による授業実践

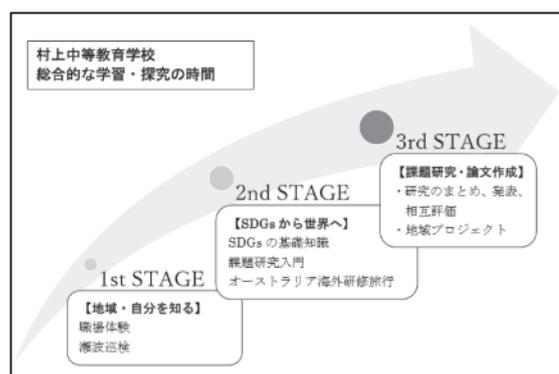
4月から実践している1人1研究授業として、新聞を活用した授業を実践した。各教科で代表者が研究授業を行い、実践後は教科で振り返りを行うなど、新聞活用の方法を探った。

| 日時 | 学年・教科 | 単元名 |
|--------|-----------|-----------------|
| 12月15日 | 5年生 現代文 | 「評論 生物の作る環境」 |
| 10月11日 | 4年生 情報Ⅰ | 「コミュニケーション」 |
| 1月24日 | 3年生 理科 | 「さまざまな物質の利用と人間」 |
| 9月2日 | 4年生 現代社会 | 「今の世の中を知ろう」 |
| 12月6日 | 4年生 英語表現Ⅰ | 「英字新聞で伝えよう」 |
| 12月9日 | 4年生 保健 | 「感染症とその予防」 |

(3) 「総合的な学習・探究の時間」における活用

各ステージにおける「総合的な学習・探究の時間」の全体計画を見直した。最終ゴールを3rd STAGEでの論文作成と設定し、それぞれのステージのつながりを意識している。

各ステージ、学年における、「総合的な学習・探究の時間」での新聞活用を、以下のように計画した。



| 学 年 | 内 容 (※ 新聞の活用方法) |
|----------------------|---|
| 1st STAGE (1・2年生) | 【地域・自分を知る】 <u>※年間を通した新聞スクラップ</u> 瀬波巡検 <u>職場体験 (※ 職業に関する情報の収集)</u> |
| 2nd STAGE (3・4年生) | 【SDGsから世界に目を向ける・論文作成準備】 <u>SDGsの基礎知識 (※ 新聞に基づき社会の課題を把握)</u> <u>課題研究入門 (※ 課題設定時の資料としての新聞活用)</u> オーストラリア海外研修旅行 |
| 3rd STAGE (5・6年生) | 【課題研究・論文作成】 <u>課題研究 (※ 根拠となる資料集めとしての新聞活用)</u> 課題研究のまとめ・発表・相互評価 地域プロジェクト |

4 実践例

(1) 各教科による実践

1 授業内容

| 日付 | 教科 | 学年 |
|-------------|------|------|
| 12月15日(水)3限 | 現代文B | 第5学年 |

- ① 単元名 評論三 『生物の作る環境』
- ② 本時のねらい
 - ・課題解決型小論文に即した解答を作成するための知識を新聞からどのように読み、整理するかを学ぶ。
- ③ 新聞活用のねらい
 - ・2種類の話題の新聞記事を読み、内容とその背景・課題を読み取る。



(2021年12月5日 読売新聞)

2 授業の実際

① 新聞記事の要点整理

2人ペアをつくり、一方の生徒には「昆虫食」について、もう一方の生徒には「人工肉」についての新聞記事を配付した。その後、自分の読んだ記事の要点を整理し、ペアで説明した。



② 共通の背景の確認

生徒に、2つの記事の話題が取り上げられる背景は何かを問いかけ、「食糧問題解決」「温室効果ガス削減」であることを確認した。また、「昆虫食」「人工肉」普及の問題点を考え、意見を交流させた。

③ 200字で自分の考えをまとめる

新聞記事の内容を基に、自分の立場を明確にした上で、自分の意見を200字でまとめた。その後、提示された課題に対して意見を述べる際の注意点を確認し、まとめとした。

3 実践の成果

「昆虫食」「人工肉」といった話題は、食糧問題解決や温室効果ガス削減を背景としているため、身近なものとしてとらえて活発に意見を交わすことができた。記事の内容を丁寧に読み、自分の意見を明確にするための材料とすることで、「書くこと」の苦手意識を払拭し、熱心に取り組み、他の生徒と良いところを共有することができた。

(2) 総合的な探究の時間における実践（4 学年）

1 授業内容

① 単元名 今の世界の様々な事柄・事象を自主的な取組の中で深く知る

② 単元の目標

- ・ 3 年次の SDGs の知見を生かしながら，自分の興味・関心のある事柄・事象にフォーカスし，その事柄・事象の現状を知り，立案した課題解決の方策を発表する。

③ 指導の構想

前期課程 3 年の総合的な学習の時間では，「自己を見つめる・世界とつながる」をテーマに，10 年後の自分や世界について学習した。それは 10 年後の望ましい自分の姿を予想し，それを実現するためにどのような進路を選択するか，考えを深めた内容だった。

後期課程 4 年では，「SDGs を学ぶ」から「SDGs で学ぶ」に移行し，SDGs の枠組みで世界を見つめ直し，課題解決のプロジェクトを企画・実行していくことを目指した。これまでの学びや今までの「知見」を生かし，自身の興味・関心のある事柄・事象の問題や課題を見出し，解決する方策を立案し，発表することとした。

③ 新聞活用のねらい

- ・ 自分の興味・関心のある事柄・事象について，その問題点や課題のソースとして新聞記事を活用する。

④ 単元構成

| 時間 | 学習内容 | 生徒につけたい力 |
|----|---|--|
| 4 | ・ 3 年次に学習した SDGs について，発表用プレゼンテーションの作成・発表 | ・ 自分の考えを周りの人に伝えるように表現する力 |
| 4 | ・ 伝統芸能教室において地元の青年会議所や芸能団体の方々とグループワーク。(9 月～10 月) | ・ コミュニケーション力 ・ 他者の意見を理解し，自分の意見と結びつける力。 |
| 8 | ・ 新聞のスクラップ ・ パワーポイントの作成 ・ プレゼンテーションの練習 | ・ 自ら課題を発見する力 ・ 課題の内容を理解する力 ・ 課題について深く考え，分析・評価する力 |
| 1 | ・ 学習内容の発表 (4 年生から 3 年生へ) | ・ 自分の考えを周りの人に伝えるように表現する力 |
| 1 | ・ 振り返り | ・ 自ら進んで学ぼうとする力 ・ 自分で考えたことを実行する力 |

2 授業の実際

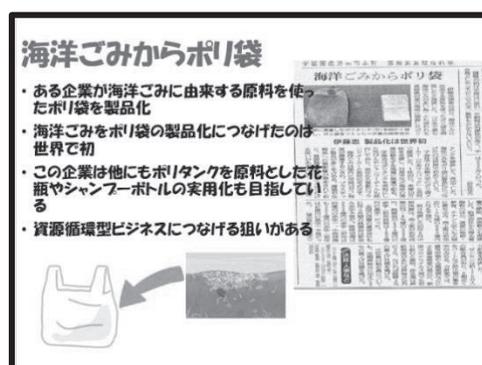
① 資料作成のための新聞スクラップ（8月～10月）

各自でテーマを設定し、そのテーマについて新聞記事を用いて情報収集を行った。テーマについては、「自分の興味・関心がある事柄」とし、3年生で学習したSDGsと関連して設定する生徒もいた。生徒はNIEコーナーにある新聞や、各家庭で購読している新聞を読み、必要な記事をスクラップした。



② 発表資料の作成（11月～12月）

スクラップした新聞記事をもとに、設定したテーマについて、現状の考察を行った。生徒は、テーマについての社会の課題やニーズを発見し、その課題をどのようにしたら克服できるかを検討した。自分の考えをパワーポイント等にまとめ、発表準備を進めた。



③ 研究発表会（12月15日）

課題研究発表会として、4年生と3年生をそれぞれ6ブースに分け、4年生が課題研究の成果を発表した。3年生が聞き、質問をした。



3 実践の成果

生徒の記述による振り返りから「環境問題とSDGsを関連づけて新聞を読み、文章にまとめることができた」「新聞から世界の現状を知り、たくさん
の問題があることを知った」「問題は知っていても、新聞を読むことで海外と比較した情報やデータを知ることができ、深く考えることができた」といった感想があった。新聞の活用により、社会の出来事を自分事として捉え、課題を意識し、主体的に解決に向かおうとする生徒の意欲を喚起することができたと考えられる。

授業後の検討会では、新聞活用の有効性について、「社会の問題に関心をもつきっかけとなる」「自分の興味・関心のある事柄とは別のニーズや課題と自然と出会い、比較検討ができる」「同じテーマでも、新聞記事によって違う視点で考えることができる」「ジェンダー問題、環境汚染、食品ロス、世界中にきれいな水を、など、多様なテーマを設定した。インターネット等とは違い、一度に様々な情報を得ることができる、新聞記事の特徴が活かされていた。」という意見があった。

また、新潟青陵大学の中野啓明先生からは、課題探究型の学習では「問い」を持つことの重要性について話があった。上手にまとめて終わるのではなく、「問い」からスタートし、調べていく上で出てくる新たな「問い」を設定し、更に深めていく。「問い」と「答え」の連続が探究であり、学びに向かう力となることをご指導いただいた。

5 成果

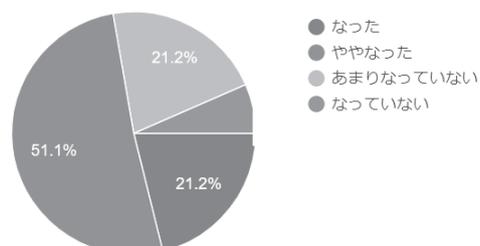
3,4年生を対象に行ったアンケートでは、「あなたは以前より新聞に興味をもつようになりましたか」という質問に対して72.3%の生徒が肯定的な回答を示した。また、新聞を活用したことで、教科や授業の内容をさらに学びたいという気持ちになった生徒が69.3%，総合的な学習・探究の時間でさらに学びたいという気持ちになった生徒は79.5%であった。新聞の活用によって多くの生徒の学ぶ意欲を喚起することができたと考えられる。

また、4年生を対象にとった「2年間のNIEの活動を通してどんな力がついたと思いますか」という質問に対しては、「課題の内容について深く考え、分析・評価する力」の68.3%で最も多く、「課題の内容を理解する力」の61.9%が2番目に多かった。生徒はNIEの活動を通して、「思考力、判断力、表現力」が高まったと考えられる。

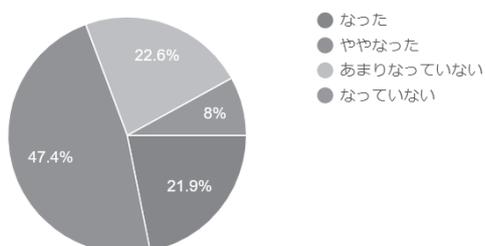
また、「新聞はネットとは違い、時系列ごとの出来事を詳しく知ることができる」「新聞は自分の興味のあること以外のことも目に入り、知識を得ることができることを改めて感じた」などの新聞の良さに関する記述や、「自分で記事をまとめて課題を見出すことで探究心が高まった」「新聞を見つけてスクラップしていくことで世間の話題や新聞などに興味湧いてきた」といった記述があった。

新聞は、生徒と社会を結び付ける有効なツールであることを再認識することができた。一方で、新聞活用と学力向上の相関関係については十分な検証ができなかった。今後の課題としたい。

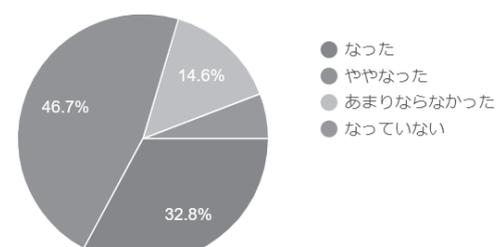
あなたは以前より新聞に関心をもつようになりましたか。
137件の回答



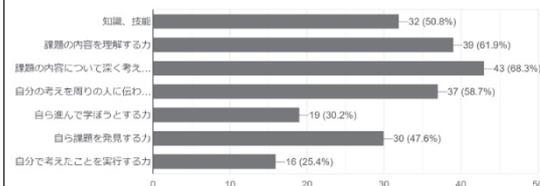
授業で新聞を活用したことで、教科や授業の内容についてさらに学びたいという気持ちになりましたか。
137件の回答



総合的な学習・探究の時間で新聞を活用したことで、さらに学びたいという気持ちになりましたか。
137件の回答



2年間のNIE（新聞スクラップ、各教科の授業、...したか、あてはまるものを全て選んでください。
63件の回答



(新沢 耕輔)